

第2学年 道徳科学習指導案

作成者：面川 怜花

1. 主題名 みんなのものを大切に使う心 C[規則の尊重] (全1時間)

2. 教材名 黄色いベンチ (かがやけみらい 学校図書)

3. 主題設定の理由

(1)ねらいとする価値について

そもそも、きまりとはなんだろう。また、なぜあるのだろうか。果たしてきまりは必要なのか。きまりを守るとどんなよさがあるのだろうか……こうしたことを、子ども同士や教師と子どもが考え議論することで、きまりのよさについて多面的・多角的に物事を見る力がつき、きまりという価値への理解を深めることができるのではないだろうか。低学年の段階では、“きまり”そのものについて考えることよりも、「みんなでつかうものを大切に使う心」を重点的に考えさせていく。みんなで使うものを大切にするとどんなよいことがあるのか。今の自分にとって、また次に使う相手にとっても気持ちのよいことであり、心がすっきりするといった情意的側面を大事にしたい。また、わかっている夢中になって忘れてしまっでできないときもある。周りの人に流されてしまうなどという事実と向き合いながら、みんなで使うものを大切に使う心について考えを深めていきたい。繰り返し考え議論していく中で、よりよい人間関係を形成していく。そしてきまりの在り方や重要性に気づき、進んで守ろうとする態度が養われるだろう。集団や社会のために自分が何をすればよいのか、また、自分に何ができるのか、自他のことを尊重しながら、進んできまりを守り行動する態度を育てていきたい。

(2)児童の実態について

本学級では「時間を守ること（特に5分前行動）」や「友達がいやがることは言わない・しない」をきまりとして指導している。時間は「みんなが活動できる時間を増やそう」「見通しをもって行動できる人になろう」という思いのもと指導にあたっている。「教室移動の際は静かに並ぶ」「廊下を走らない」については、廊下はいろいろな人が通る場所であり、自分たちだけの場所ではないことの確認とともに、安全に生活するために続けて取り組んでいる。廊下や教室にある遊び道具や文具類、そうじで使う雑巾などのものは、「大切に使おう」と児童が互いに声をかけ合いながら守ろうと意欲は高い。一方で、一つの活動に夢中になり教室の中でみんなが使う道具などの片づけをせず残したまま、教室移動や休み時間になることもある。低学年の段階では自己中心性が強い。本教材を通して、みんなが使うものを大切に使うよさだけでなく、夢中になって“大切に使おうという思い”を忘れてしまう自分を見つめながら、物を大切に使うとみんなが気持ちよく安心して過ごすことができるということを考えさせたい。

(3)本時の教材について

[教材について]公園での一場面である。たかしとてつおが、紙飛行機をとばそうと公園のベンチの上に上った。何度も何度も上って飛ばした。一通り遊んだ後に、5歳くらいの女の子とおばあさんがやってくる。女の子がベンチに座るとスカートがどろだらけ。たかしとてつおのくつがドロドロだったのだ。二人は「はっ」として顔を見合わせた。

[考えさせたいこと]教材を通して、夢中になっているときに「みんなのものを大切に使う心はあるのだろうか」について考えることを通して、大切に使えるときとそうでないときの心の違いや迷いを明らかにしたい。そして、みんなのものを大切につかうとどんなよいことがあるか、自分にとっての“みんなのものを大切につかう心”の中身を考えさせたい。

4. 本主題で育む資質・能力とそれを育成する主な手立て

学習場面	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
飛行機を飛ばしている場面の男の子について考える	○メタ認知力	○協働が生まれやすい活動・ルールの設定

男の子たちは、「ものを大切にしよう」という心があるのだろうか。	○他者に対する受容・共感・敬意	○子どもの同士の信頼関係の構築
“自分がそこにいる2人のうちの1人だったら…” おばあさんが帰ったあと2人はどうするだろうか。	○問題解決力 ○メタ認知力	○他者との学び合いの設定 ○試行錯誤が可能な場の設定

5. 本時のねらい

みんなが使うものを大切にしようと思うけれど、夢中になってしまうと大切にできないこともあるという難しさを考えながら、みんなが使うものを大切にしようという心情や実践意欲を育てる。

6. 本時の展開

	学習活動 (◎中心発問○発問・児童の反応)	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入	1 問題意識を高める ○この絵を見てどう思いますか。 ・なんでドロドロ? ・座れない ・次に使う人が困る みんなのものを大切につかうと、 どんないいことがあるのかな	◇汚れたベンチを見ている男の子をシルエットにして提示をし、より自分事として考えられるようにする。 ◇本時の学習の間、みんなのものを大切にしているなぁと感じるときとそうでないときを色カードで示してよいこととし、可視化することで、協働が生まれやすくする。
展開	2 教材を読んで話し合う ○思ったり感じたりしたことを話す ・ベンチの上に上って、紙飛行機を飛ばすのはよくない ・はじめは楽しんで、自分のことだけだった ○紙飛行機を飛ばしている場面を考える ・楽しい ・もっとやりたい! ◎夢中になっているとき2人の心の中に “大切に使おう”という思いはあったのか (立場を明らかにした話し合い) ・夢中になっていて気づかなかったけれど、大切にしようという気持ちはある ・気持ちはあるかもしれないけど、でも行動に出せていない ○もしあなたがそこにいる2人だったら、おばあさんが帰ったあと、どうしますか。 ・みんなのものだから、きちんとふこう	◇たかしとてつおの気持ちに共感させる。夢中になっていた事実から、二人の思考の中に飛行機しかないことを押さえる。 ◇演技に着目させる ・いすの上にのぼる子→躊躇しながらのぼるのか、夢中にのぼるのか ・周りをみながら、控えめに飛ばすのか、自分本位に飛ばすのか、など→その場で理由を聞く ◆「はっ」と顔を合わせたときのたかしとてつおの思いを十分に想像させ、飛行機に夢中だったときから心情の変化を理解させると同時に、自己の経験も振り返らせる。 ◇公共の場であることも理解させる。 ◇大切に使おうという気持ちはあるけれど、夢中になっていて忘れてしまっている状況を理解させる。 ◇一人ならできたかもしれないが、友達と一緒にだったことでできなかった、など、環境にも目を向けられるようにする。 ◆次の人のことを考えている ◆“みんなのものだから”の視点で考えている ◆ベンチの気持ちになって考えている (演技)
終末	4 今日の学習をふりかえって考える ○みんなのものを大切に使うとどんないいことがありそうかな ・みんなのものを大切に使うと心がすっきりする ・自分も次の人も気持ちよく使える	◇導入との比較で授業の深まりを実感させる。 ◇付箋に書かせて、黒板に貼らせる ◆次の人のことを考えていたか ◆“みんなのものだから”の視点で考えていたか ◆自分の生活につなげて考えようとしていたか (ワークシート)